

昭和56年(1981年)5月以前に建てられた木造住宅にお住まいの皆さま、

地震がきた時 1人で逃げられますか？



震度6強の地震が発生した時、家の中では・・・

は
床を這わないと動くことができない、飛ばされることもある。
固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。

- ・地震が発生しても、自ら避難をするため。
- ・自宅が倒壊しても、避難路を妨げないため。
- ・子どもや孫の命のため。



自分のためだけでなく、他の人のためにも、
木造住宅耐震化の検討をお願いします。

下田市では静岡県と連携し、プロジェクトウカイゼロプラスを実施しています。

目的『地震により住宅・建築物の倒壊から、一人でも多くの市民の命を守り、助かった命をつなぐ』

TOUKAI-0+

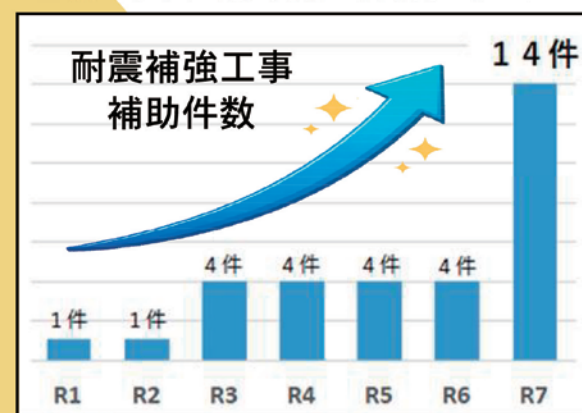
 支援制度

- ☐ 無料の耐震診断
- ☐ 木造住宅の耐震補強
- ☐ 耐震シェルターの設置
- ☐ 防災ベッドの設置
- ☐ ブロック塀の除却・建替え



各種補助要件があります。
詳細は市HPまたはお問い合わせください。

耐震補強工事補助件数は、安価な工法の普及により、過去最多を更新しました！



お問い合わせ

下田市役所 建設課 都市住宅係 0558-22-2219
住所：下田市河内101-1 南館3階

受付時間
9:00~16:00
(土日祝日を除く)

防災かわら版 特集号

令和8年熊本地震

被災地支援派遣職員レポート②

問合せ先 防災安全課防災係 ☎4145

令和8年7月28日に発生した「令和8年熊本地震」では、連日の報道により各地で甚大な被害をもたらしていたことは、多くの市民の皆さんも周知のことと思います。今月号も先月号に引き続き、熊本県宇城市へ静岡県第3陣（8月13〜21日）として派遣された職員からの詳細なレポートを掲載します。

下田市においても、今後30年以内に駿河湾から四国沖・日向灘を震源域とする南海トラフ巨大地震への対策に迫られている中、今回の熊本地震における数多くの教訓は、私たち自身の防災対策に活かせることが多くあると思います。市民の皆さんもぜひ一度、このレポートに目を通していただき、ご自身の防災対策、お住いの地域における防災対策などに活かしていただけると幸いです。

宇城市と下田市との違い

支援として入った宇城市や業務終了後に視察した氷川町や八代市など、今回大きな揺れにより被害のあった地域は家屋の倒壊や断層の隆起により様々な被害が発生していました。



全壊した家屋（氷川町）

派遣期間中に感じたことは、道路への被害が予想していたより大きくなかったことです。昨年度、能登半島地震の被災地を視察した際、発災から1年以上経過していましたが、通行不可や仮設の道路、工事中のところが何カ所もありました。一方で宇城市やその周辺地域は、断層により被害を受けた道路や倒壊家屋により通行不可の場所はありませんが、多くの道は通行可能で土砂災害による道路への影響もほぼ無いように見えました。

宇城市内は山間の地域もありますが、中心市街地やその周辺は起伏の少ないならかな平野や丘陵地です。下田市のように山地と集落が入り組んでいないため、土砂崩れ等による道路への被害は多くありませんでした。

そのため、宇城市内で道路閉塞により孤立した集落は無く、発災後数日以内に近隣の自治体からトイレカーなどの支援を受けられていました。南海トラフ巨大地震が発生した場合、下田市だけでなく様々な地域で、家屋の倒壊や土砂災害、巨大な津波による大きな被害が予想されています。交通網のマヒも想定されるため、国や他の自治体や団体などからの支援は、熊本地震と比べ、その速さや量が異なる

なると考えられます。そのような状況下で必要になってくることは、事前の備えをいかに行っておくかです。



倒壊した家屋が道路をふさぐ（八代市）

宇城市で被災された方のお話で、自宅を建て替えた耐震工事をしていたため被害が少なかったという人がいらっしました。一方で、「まさかまた地震が起きるとは」という人や耐震工事をしていても家具の固定を怠っていたため、テレビや食器棚が倒れ、家の中が大変なことになったという人もいらっしました。耐震工事などの建物自体への対策や家具の固定といった被害を少なくするための対策が必要となってきます。また、下田市は熊本地震と

異なり、津波による被害が予想されます。いち早く避難できるように、事前に避難場所やルートの確認をしたり家族と共有する、とつぎに持ち出せる非常用持出袋などの準備を行うといった、事前の対策の必要性も感じました。



避難所敷地内にある様々な地域からの支援車両（宇城市）道路等に大きな被害が無く迅速に各地からの支援を受けられていた

災害はいつ発生するかわかりません。できる範囲で少しずつ対策を行い、大きな災害に備えることが必要だと強く実感しました。「いざ、防災対策を」となっても、何から始めればよいか戸惑うかもしれません。まずは身近なところから。ハザードマップや避難場所の確認を行い、備蓄品の備えなど、少しずつでもできる範囲で対策していきましょう。